

※家宝の刀を徳川家康に
献上する瀬戸方久(方休)
／国立国会図書館蔵



「家康公にも気に入られていたんじゃな！」

PLACE

二俣城跡

もとは井伊家を支える
松井氏一族

瀬戸姓を名乗る以前、松井姓を名乗っていたとされる方久。松井氏(二俣城主)の一族だったと言われている。方久は郷士(武士の身分のまま農業に従事した者、または武士の待遇を受けていた農民)であったが、井伊が桶狭間の戦いで敗北すると、家勢が傾き、商人へと転身したという説がある。



DATA 浜松市天竜区二俣町二俣 交/天竜浜名湖鉄道「二俣本町駅」から徒歩約10分



危機察知能力も人一倍!?

今川による徳政令免除の見返りとして、堀川城の工事費を負担したとともに新田と改姓して後の城主を務めたといわれているが、徳川家の攻撃前に城から逃げ出している。家康が攻めてきたころ、堀川城に立てこもっていた竹田高正、山村修理、尾藤主膳らをリーダーとする武装蜂起した農民たちも、家康に容赦なく撫で斬りにされており、この戦いは「堀川一揆」や「気賀一揆」と呼ばれている。気賀のまちには首がさらされた「獄門殿」などが残っている。

DATA 浜松市北区細江町気賀5261 交/JR浜松駅「金指 気賀」「聖隷三方原・気賀」行きバス約50分、「大河ドラマ館」下車徒歩約7分

瀬戸方久は直虎の大切な支援者

薬師如来を本尊とする川名にある福満寺は井伊家ゆかりの寺。直虎がこの福満寺に釣鐘を寄進した。方久は資金を提供し、瀬戸四郎右衛門の名で願主として名を連ねたといわれる。

DATA 浜松市北区引佐町川名382-2 交/天竜浜名湖鉄道「フルーツパーク駅」より車で約20分



福満寺

「川名」は、井伊谷より少し北にある町じゃ!

▶▶ PICK UP!

今もなお地名が残る「川名」の町

国指定重要無形民俗文化財に指定されている「川名ひんどり」で有名。福満寺薬師堂で1月に行われる、五穀豊穡・子孫繁栄を祈る祭りで、いつから始まったか記録は残っていないものの、少なくとも400年以上の歴史があるのではないかとされている。祭り前半の見せ場となる松明と若衆によるもみ合いから「火踊祭」と呼ばれたものが「ひんどり」となったとされる。



瀬戸のまち



瀬戸のまちは現在の初山宝林寺一帯をいう。橋の名などにその名残がある。

瀬戸方久の足跡

成り上がったのかもしれない。

永禄11年(1568年)に武田と示し合わせた徳川勢が、井伊谷を通って攻め込んでくると、方久は、今川を見限り、徳川に寝返る。家康に都田川を渡るよきの浅瀬を教え、家宝の刀を献上、いち早く媚を売り家康側についた。井伊家に取り入りながら今川家とも交渉し、今川が危なくなると徳川につく。利益のために柔軟に乗り移る敵とも味方とも言えない人物だが、方久の支えがなければ井伊家は経済的に立ち行かなくなってしまうていたかもしれない。井伊家にとっては重要な人物のひとりといえる。

HISTORY

井伊家破綻の危機を救った腕利き商人

瀬戸方久は瀬戸村(浜松市北区細江町中川)出身の高利貸しであったと伝えられる。度重なる戦で家臣を次々と失ってしまっただけでなく、財政も火の車になっていた井伊家にとって、お家存続のために必要な資金を援助してくれる瀬戸方久は重要な人物であり、直虎の大切な支援者であった。

1566年、今川氏真から徳政令発効の要請があると、徳政令が実行されないように井伊家に働きかける。方が一発令されても、自分の土地だけは守ろうと今川家に交渉し、借金の代わりに得た土地を返さなくていいというお墨付きをもらう。今川方の堀川城の普請も請け負い、その後、自ら堀川城の城主におさまり、新田氏の子孫として新田喜斎と名乗ったという説もある。方久は才覚ある人物で、商人から城主へ

TRIVIA

井伊家

豆知識

徳政令って何? 発令されるとどうなるの?

徳政令とは、債権者(金貸し)に対して、債務放棄(借金を帳消しにする)を命じること。徳政令が発令されると、方久のような金貸しは大きな損失を受けて破綻してしまう。一方、領民たちにとっては、借金が帳消しになるので喜ばしいことであるが、そこに落とし穴はある。お金を貸していた方久のような商人らが破産すると、その後井伊家も領民も一切お金を借りられなくなり、結局は商人だけでなく、井伊家も領民たちも共倒れしてしまうのだ。

結局、後に今川による徳政令は発令されるが、直虎が発令を2年間遅らせ、その間に商人らに対し徳政令の免除を行う措置を進めた。担保の土地を徳政令から除外する書状を龍潭寺に発行し菩提寺を守ったり、方久が今川と交渉したりと、被害を最小限にとどめられるよう準備をしたことで、大事は免れたのだ。

大本山 方広寺



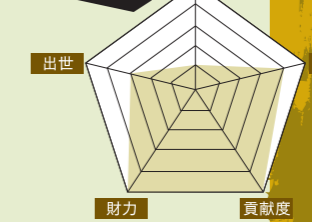
井伊家の親族・奥山家の菩提寺「方広寺」に三重の塔を寄進。方久は井伊直政の母の出身、奥山家ゆかりの寺「方広寺」に三重の塔を寄進するが、2階部分の建設中に亡くなったと言われている。現在の方広寺にある三重の塔は、大正12年(1923年)、京都の篤志家「山口玄洞」氏の寄付により建立されたもの。全国の財界人が「倒産よけの塔」としてお参りにくるこの塔を、財を成すプロであった方久と重ねて見るのもおもしろい。

方久ってこんな人

方久殿は、野心旺盛な成り上がり者じゃ! 感心するのう



家康くんが分析! 方久メーター



巨万の富を蓄えた大商人(豪商)

成り上がり者

井伊家の財務省